

紹介受診重点医療機関に係る協議（書面会議の主旨）

1. 紹介受診重点医療機関について

紹介受診重点医療機関とは、入院前後の外来や高額な医療機器を必要とする外来等の医療資源を重点的に活用する外来を地域で基幹的に担う医療機関のことです。国のガイドラインによると、そのとりまとめにあたっては地域の協議の場での協議が必要とされています。

東葛北部保健医療圏においては、令和5年7月19日に開催された「令和5年度第1回東葛北部地域保健医療連携・地域医療構想調整会議」において、令和4年度外来機能報告の結果を元に協議を行い、8つの紹介受診重点医療機関がとりまとめられ、令和5年8月1日付けで公表されています。

2. 今回必要となる協議について

今回、医療法人社団圭春会小張総合病院から、紹介受診重点医療機関となる意向を取り下げたい旨、裏面のとおり申し出がありました。国によると、紹介受診重点医療機関となっている医療機関が紹介受診重点医療機関でなくなる場合も、地域の協議の場での協議が必要とされていることから、関係者の皆様に地域の実情を踏まえた意見等を伺うものです。

3 意見提出の方法について

御意見は、別添の様式により令和6年1月22日(月)までに御回答ください。なお、協議の結果については県ホームページで公表します。また、協議が整った場合には、令和6年1月31日付けで当該医療機関が紹介受診重点医療機関でなくなったことを同年2月1日に県ホームページで公表する予定です。

No.	医療機関名	所在地
1	医療法人社団圭春会小張総合病院	野田市
2	東京慈恵会医科大学附属柏病院	柏市
3	社会医療法人社団蚩水会名戸ヶ谷病院	柏市
4	くぼのやウィメンズホスピタル	柏市
5	医療法人徳洲会千葉西総合病院	松戸市
6	松戸市立総合医療センター	松戸市
7	医療法人社団太公会我孫子東邦病院	我孫子市
8	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	柏市

【担当】

千葉県健康福祉部医療整備課
地域医療構想推進室 辰巳・石橋
電 話：043-223-2457
F A X：043-224-8210
メール：chihuku@mz.pref.chiba.lg.jp

紹介受診重点医療機関一覧（東葛北部）

紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

令和 6年 1月 4日

1 基本情報

医療機関名	医療法人社団 圭春会 小張総合病院
所在地	千葉県野田市横内 29-1
紹介受診重点医療機関となった公表年月日	令和5年8月1日

2 紹介受診重点医療機関となる意向を取り下げる理由

<p>① 紹介受診重点医療機関となることを取り下げる理由</p> <ul style="list-style-type: none">・ 当院は野田市の総合病院として30年以上、地域に根付いた医療を行ってきました。それゆえに小張（当院）に行けば大丈夫（いつでも受診可能で安心）という形で、かかりつけ医を持たずに当院に来られる患者様が今も多くおります。・ 7,000円の初診時選定療養費を支払う事により、外来受診がしづらい環境にもなり、受診を我慢し後手に回り、周囲の病院・クリニック（が対応できず患者様やそれらの医療機関）にご迷惑をかけてしまっています。・ 野田市の医療機関が紹介のみで医療を行うには、周辺クリニックや病院数が少なく医療の質が保てなくなっております。・ 小張総合クリニックの廃止を行い当院に外来を統合することにより入院前後の医療資源を必要とする重点的な外来は増えましたが、退院後の紹介場所の少なさと、患者様より複数科を有している当院でのフォローを希望されることが多いため、かかりつけ医への移行がとても難しいです。・ 特定の領域に特化した専門外来も、小張総合クリニックと当院の統合により増加していますが、その後の地域医療への受け渡しが出来ていない状況です。（血液内科等） <p>② 紹介受診重点医療機関でなくなることで生じる地域への影響とその対応について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 当院が紹介重点医療機関でなくなることは、軽症者や初診患者の受診者数が減らないため、当院の医療従事者の負担を軽減できなくなります。ただ、小張総合クリニックと当院の統合により重症・特定の患者様の受け入れがスムーズにできるようになり職員への負担軽減ができた分で調整ができております。一番の影響は、小張総合クリニックにて今まで行っていた外来をすべて当院で行わないと、患者様の紹介を他市にお願いしなくてはいけなくなることです。
--

区分：取り下げ（現在紹介受診重点医療機関となっている医療機関）

1日600名～800名の外来患者様（初診・再診含む）を地域に振り分けることは現実的にできない為、今後も当院で受け入れを行う必要があると考え今回、野田市の医療をしっかりと支えるために紹介受診重点医療機関の取り下げを申請させていただきます。

- 今後につきましても、地域に根ざした医療を行っていき、今後紹介状が無い患者様も、紹介状を持ってきた患者様も、病院として質の高い医療を提供し安心して地域で過ごしていただけるように努力していきたいと考えています。

参考：直近の報告値（令和4年度外来機能報告）

区分	医療資源を重点的に活用する外来（紹介受診重点外来）の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	37.4%	68.4%	39.6%	78.6%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	216日/6,531日	3,693日/37,964日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	2,153日/6,531日	23,930日/37,964日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	560日/6,531日	460日/37,964日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。